公演スケジュール

チケットは六花亭各店で発売いたします

2020年 5月30日（土） 午後4時開演
ふきのとうホール レジデント・アーティスト 小菅 優コンサートシリーズ Vol.3
佐藤俊介、トゥーニス・ファン・デァ・ズヴァールトを迎えて！

〈出演〉 小菅 優（ピアノ）、佐藤俊介（ヴァイオリン）、トゥーニス・ファン・デァ・ズヴァールト（ナチュラル・ホルン）
〈曲目〉 L.v.ベートーヴェン：ホルン・ソナタ ヘ長調 Op.17／エコセーズ 変ホ長調 WoO86（ピアノ・ソロ） 他
W.A.モーツァルト：ヴァイオリン・ソナタ 第25番 ヘ長調 K.377
L.A.コジェルフ：ホルンとヴァイオリンのための二重奏曲より
J.ブラームス：ホルン三重奏曲 変ホ長調 Op.40

2020年 6月12日（金） 午後7時開演
葵トリオ ピアノ三重奏の調べ
4月11日（土）発売

〈出演〉 小川響子（ヴァイオリン）、伊東 裕（チェロ）、秋元孝介（ピアノ）
〈曲目〉 L.v. ベートーヴェン：創作主題による14の変奏曲 Op.44
ピアノ三重奏曲 第7番 変ロ長調 「大公」 Op.97 他

2020年 7月4日（土） 午後4時開演
堀米ゆず子・児玉 桃 デュオリサイタル
5月8日（金）発売

〈出演〉 堀米ゆず子（ヴァイオリン）、児玉 桃（ピアノ）

2020年 7月17日（金） 午後7時開演
寺神戸 亮・曽根麻矢子 デュオリサイタル
5月30日（土）発売

〈出演〉 寺神戸 亮（ヴァイオリン）、曽根麻矢子（チェンバロ）

2020年 9月5日（土） 午後4時開演
小林道夫 ピアノリサイタル
7月4日（土）発売

〈出演〉 小林道夫（ピアノ）

2020年 9月26日（土） 午後4時開演
27日（日） 午後4時開演
ふきのとうホール レジデント・アンサンブル 第2期
クァルテット ベルリン-トウキョウ Vol.5・6
7月17日（金）発売

2020年 10月1日（木） 午後7時開演
岡山 潔 メモリアルコンサート Vol.2
7月17日（金）発売

2020年 10月15日（木） 午後7時開演
シャイ・ウォスナー ピアノリサイタル
8月12日（水）発売

2020年 10月26日（月） 午後7時開演
東京六人組
9月5日（土）発売

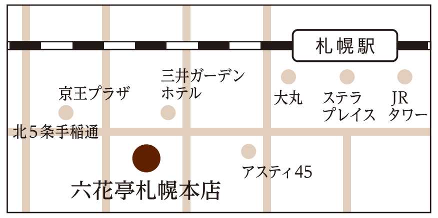
入場料 各4,000円 または六花亭ポイント400ポイント（税込／全席指定／学生各2,000円）

・9月26・27日通し券 6,000円（または600P） ・公演内容が変わる場合がございます。あらかじめご了承ください。
・チケットの発売状況につきましては六花亭フリーダイヤル、またはホームページでご確認ください。

〈2020年4月11日現在〉

ふきのとうホール

札幌市中央区北4条西6丁目3-3 六花亭札幌本店6階
・札幌駅南口から徒歩5分。駐車場はございません。・お問い合わせは 0120-12-6666 まで。
・チケットは六花亭各店、またはホームページでご購入いただけます。https://www.rokkatei.co.jp



コンサート開演前、終演後のお食事は六花亭札幌本店9階でいかがですか？ お電話でご予約の上、お越し下さいませ。

鮨の田なべ
営業時間／平日・祝日 17：00~21：30 最終入店
定休日／日曜日 011-219-2202

モリエールカフェ 降っても晴れても
営業時間／11：00~16：00 17：30~20：00
定休日／水曜日 011-221-2000

ふきのとうホール

ベートーヴェン生誕250周年記念。室内楽の殿堂 ふきのとうホールが贈る、スペシャルプログラム！

ベルチャ弦楽四重奏団
L.v.ベートーヴェン：弦楽四重奏曲 全曲演奏会

チケットは六花亭各店で発売中

© Marco Borggreve

〈出演〉 ベルチャ弦楽四重奏団
コリーナ・ベルチャ（ヴァイオリン）、アクセル・シャハー（ヴァイオリン）、クシシュトフ・ホジェルスキー（ヴィオラ）、アントワーヌ・レデルラン（チェロ）

2020年
11月17日 火・18日 水・19日 木
午後6時30分開場 午後7時開演

11月21日 土・22日 日・23日 祝
午後3時30分開場 午後4時開演

六花亭札幌本店 ふきのとうホール
入場料 各4,000円
または六花亭ポイントカード400P
（税込・全席指定・学生各2,000円）

6日通し券 20,000円 または2,000P
ペア券 7,000円 または700P

11月17日（火）　午後7時開演

弦楽四重奏曲 第6番 変ロ長調 Op.18, No.6
弦楽四重奏曲 第15番 イ短調 Op.132

11月18日（水）　午後7時開演

弦楽四重奏曲 第4番 ハ短調 Op.18, No.4
弦楽四重奏曲 第10番 変ホ長調 Op.74 「ハープ」
弦楽四重奏曲 第7番 ヘ長調 Op.59, No.1 「ラズモフスキー第1番」

11月19日（木）　午後7時開演

弦楽四重奏曲 第5番 イ長調 Op.18, No.5
弦楽四重奏曲 第9番 ハ長調 Op.59, No.3 「ラズモフスキー第3番」
弦楽四重奏曲 第12番 変ホ長調 Op.127

11月21日（土）　午後4時開演

弦楽四重奏曲 第3番 ニ長調 Op.18, No.3
弦楽四重奏曲 第16番 ヘ長調 Op.135
弦楽四重奏曲 第8番 ホ短調 Op.59, No.2 「ラズモフスキー第2番」

11月22日（日）　午後4時開演

弦楽四重奏曲 第2番 ト長調 Op.18, No.2
弦楽四重奏曲 第11番 ヘ短調 Op.95 「セリオーソ」
弦楽四重奏曲 第14番 嬰ハ短調 Op.131

11月23日（月祝）　午後4時開演

弦楽四重奏曲 第1番 ヘ長調 Op.18, No.1
弦楽四重奏曲 第13番 変ロ長調 Op.130／大フーガ 変ロ長調 Op.133

曲目・曲順は変更となる場合がございます。

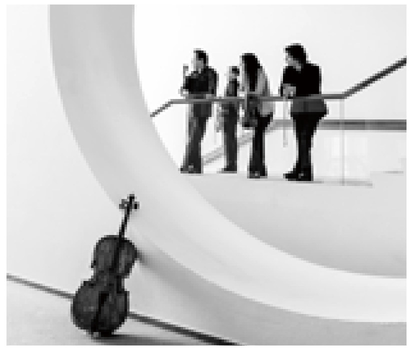
〈レビューより〉

【BBCミュージック・マガジン】

ベートーヴェンの弦楽四重奏曲は彼の作品群の中でもとりわけ難解で、演奏する側と聴き手の双方に音楽性が試されるが、ベルチャ弦楽四重奏団は今一度その感興を思い起こさせてくれる。非凡なまでの努力をもって音楽に向き合い、彼らが師事したアルバン・ベルク四重奏団の演奏とはまた違った音楽を創造する。彼らは作曲家の苦悩を再現し、それはまるで彼らの奏でる楽器もまた苦しみを味わっているかのようで、特にリーダーのコリーナ・ベルチャが痛々しくも厳しい音色でその苦悩を表出させる。

【ガーディアン紙】

ベルチャ弦楽四重奏団の素晴らしさは、洗練された極上のテクニックと感情表現の幅広さが混じり合ったところにある。



© Marco Borggreve

© Marco Borggreve

ベルチャ弦楽四重奏団 Belcea Quartet

1994年、英国王立音楽大学で結成。アルバン・ベルク四重奏団やアマデウス四重奏団に師事し、その後メンバーを代え、多様な影響を共通の音楽言語へ調和させていった。この多様性が幅広いレパートリーを可能にしており、古典派やロマン派の作品を得意とする一方で多くの現代作品の世界初演を行う。現在、ベルリンのピエール・ブーレーズ・ザールのアーティスト・イン・レジデンス、ウィーン・コンツェルトハウスのレジデンス・アンサンブルを務めている。

EMIレーベルと長きにわたり専属契約を結び、2001年のデビュー・アルバムがグラモフォン賞を受賞。近年リリースしたアルファ・レーベルからの「ベートーヴェン：弦楽四重奏曲全集」と「シェーンベルク&ベルク&ヴェーベルン：室内楽曲集」はエコー・クラシック賞に、「ブラームス：弦楽四重奏曲全集」はディアパソン・ドール賞に輝いた。最新盤「ヤナーチェク、リゲティ：弦楽四重奏曲」も好評を得る。

2012年にウィーン・コンツェルトハウスで開催した「ベートーヴェン：弦楽四重奏曲　全曲演奏会」は絶賛を博し、フランスのMezzo TVで放送され、DVDとしてリリースされた。

コリーナ・ベルチャ　Corina Belcea（ヴァイオリン）

1975年、ルーマニア生まれ。ラドゥ・ボズガンとシュテファン・ゲオルギューに師事。16歳の時にロンドンに渡り、メニューイン音楽学校でナタリア・ボヤルスカヤに、英国王立音楽大学でフェリックス・アンドリエフスキに師事。英国王立音楽大学在籍中にベルチャ弦楽四重奏団を結成し、創立メンバーの一人として23年間にわたり第1ヴァイオリンを務める。カルテットでの活動のほか、世界中でソリストとしても活躍する一方で、ベルン芸術大学にて後進の指導にもあたる。使用楽器：1755年製　ジョヴァンニ・バティスタ・ガダニーニ（MERITO弦楽器信託より貸与）

アクセル・シャハー　Axel Schacher（ヴァイオリン）

1981年生まれ。4歳でヴァイオリンを始める。13歳よりパリ国立高等音楽院でボリス・ガリツキーに師事し、最優秀で卒業。2000年ティボール・ヴァルガ国際ヴァイオリン・コンクールで第2位を受賞すると同時に、バッハとパガニーニのカプリースにおける音楽解釈で特別賞を受賞した。ソリストとしてヨーロッパのオーケストラと数々共演するほか、主要音楽祭にも定期的に出演している。2008/09シーズンにはアマティ弦楽四重奏団の第1ヴァイオリンを務めた。2006年よりバーゼル交響楽団のコンサートマスターを務めており、2010年よりベルチャ弦楽四重奏団のメンバーとして活躍している。使用楽器：1824年製 ニコラ・リュポ

クシシュトフ・ホジェルスキー　Krzysztof Chorzelski（ヴィオラ）

1971年、ワルシャワ生まれ。1992年ウロンスキー国際ヴァイオリン・コンクール優勝。ヨーロッパでソリストとして活躍し、ポーランド・ラジオやBBCでの録音も行う。1996年よりベルチャ弦楽四重奏団としての活動を開始させる。2006年にはウィーン・コンツェルトハウスで、アルバン・ベルク四重奏団によるモーツァルト生誕250年シリーズにゲスト出演した。ヴィオラの委嘱作品初演も積極的に行う一方で、近年は指揮活動も展開させ、ロンドン・セレナータ・オーケストラやヤング・イスラエル・フィルハーモニー管弦楽団を指揮している。使用楽器：1670年頃製 ニコラ・アマティ

アントワーヌ・レデルラン　Antoine Lederlin（チェロ）

1975年、パリ生まれ。パリ国立高等音楽院でロラン・ピドゥに師事。19歳でフランス放送フィルハーモニー管弦楽団のソロ・チェロ奏者に就任し、現在はバーゼル交響楽団でソロ・チェロ奏者を務める。オトマール・シェックのチェロ協奏曲をアルミン・ジョルダン指揮オーヴェルニュ室内管弦楽団と録音したほか、五嶋みどり&ジョナサン・ビスとトリオでも活動する。また、マルタ・アルゲリッチ、レオン・フライシャー、ミリアム・フライドとも共演を重ねている。2006年よりベルチャ弦楽四重奏団のメンバーを務める。使用楽器：1722年製 マッテオ・ゴフリラー（MERITO弦楽器信託より貸与）